

# ことのは4号館について



ことのは4号館 言語聴覚士

上里亮

## ことのは4号館のモットー

大人は子どもたちを

”教えてあげる・楽しませる”のではなく

「一緒に楽しみ・一緒に学ぶ」

をモットーにしています

”一緒に楽しみ・一緒に学ぶ”

”教えてあげる・楽しませる”は大人が主体で 子供目線での興味や感覚とずれてしまいます。私たちは子供の目線で楽しさを表情やリアクション 言葉で共感して子

供の主体性に寄り添い そこから

”今の子供が出来たら、言えたら豊かになること” を

伸ばしていく関わりを心がけています

# 職員

管理者  
兼児童  
発達管  
理責任  
者1名



＼ことばの教室 ことのは4号館／

はじめまして!ことのは「ことばの教室 ことのは4号館」がです。

ことのは4号館は、言語聴覚士・理学療法士・作業療法士・保育士・児童指導員等多職種が常勤しています。各職種で協力しながら、ことばを育むため、社会性・認知・運動・感覚の4つを軸に、より専門性の高いチームアプローチを行っていききたいと思います。子供たちと安心・安全にめいめい遊び、ことばと心を育む教室にしていきたいので、よろしくお願いいたします。

## 職員紹介



児童発達管理責任者1名

言語聴覚士5名

理学療法士2名

作業療法士2名

保育士2名

児童指導員1名

指導員2名（言語聴覚士学生バイト）

## 4号館の大きな特徴

PT(理学療法士)

OT(作業療法士)

ST(言語聴覚士)

が揃っていること

子どもの発達にとって大切な3本柱

①身体を育てる

②心を育てる

③子どもの発達段階に適した経験が  
できるよう環境を設定する

身体を育てる



## ①粗大な運動

原始反射・定頸・寝返り・1人歩き・階段の昇り降り・ジャンプなど

## ②微細な運動

手に持ったものを口に入れる・つかむ・引っ張る・叩くなど

## ③認知の芽生え

探索行動が広がる・道具の使用・いたずらなど

# 運動機能が発達していくと

跳んだり走ったり登ったり

小さいものを掴んだり、穴に入れたり





探索意欲の増大

(色々なことをやってみたい・こんなこともできた) ↓

自立への芽生え

(自分でできる・お母さんができることは自分もできる) ↓

## 運動機能が発達していくと



「大人のようにできると思ったのに思うようにできない」「大人に手伝ってもらうのは嫌。やり直したい」 → 試行  
錯誤の時期



# 失敗しながらどうやったらうまくいくのか工夫している

## 試行錯誤する力を育てる

子どもを待って見届ける・励ます・認めて褒める・過度に手伝わない  
る・匂う

次第に、玩具や物の用途に  
あった使い方を できるように  
なる



2歳くらいの子は よく繰り返しを求める

実物での体験 見る・聞く・触  
動かしてみる

子どもは実際に体験したことしか

わからない。

満足するまで何回も繰り返す→基本は繰り返し遊び  
体験して”出来ることが増える”ということ

子供たちは言葉より先に、身体を使って出来ることが増えていきます。 例)

歩くことが出来る(こども)

→「てくてく」や「歩く」と伝えることができる(大人)

早く走ることが出来る(こども)

→「はやい」「走る」と伝えることができる(大人)

PTOTが出来ることが増やす→STが言語化していく

## 全身運動や手先の操作が大切

自分の身体を意図的に動かすことは

身体図式(ボディーイメージ)を持つことに繋がり

身体の運動の分離(原始反射の消失など)

全身の協調運動が上手になる→

口腔機能(下顎・舌・口唇・軟口蓋)の協調運動が上手になる など学

習時の姿勢や集中力、発音にも繋がる

## 他職種がいて変わったこと

・運動面で出来ることが増えて、子供達同士の関わりが増えた。 また出来たことが自信になって発話量が増え、言い誤った音を 綺麗な音に自己修正しようとする。

- ・姿勢や発音を原始反射や左右のバランスから評価して、より良い姿勢で学習を促す。
- ・感覚の過敏・鈍麻な子どもさんに対して評価して共有する。
- ・生活動作に関して順序立てて訓練をすることが出来る。
- ・訓練の幅、遊びで広がる力の理解が広がる などなど..

## お部屋紹介

プレイルーム(運動遊びの部屋)



個室の学習室





おもちゃ・制作活動の部屋 外活動のテラス







